

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会は10月14、15日に、地域資源を活かした商工観光振興について先進的取り組みを行っている、長野県阿智村で、視察研修を行いました。

調査には鈴木隆司委員長、青山英樹副委員長、柏村栄委員、栗崎千代松委員、角田秀明委員が赴きました。



長野県阿智村

阿智村は、人口7千人弱、山々に囲まれて、以前は、農業の他特に産業がなく、有名観光地や特産品等もなく、人口減少が顕著でした。これを打破すべく、アイディアマ

ンとして有名な岡庭前村長が中心となりプロジェクトチームを立ち上げました。

村再生の原点に「地域資源を活かした村づくり」を掲げ、約40年前に鉄道建設調査中に発見された昼神温泉を積極活用した「温泉エリアサポート事業」と、澄んだ星空「星空の楽園」と銘打った「スターヴィレッジ構想」を展開しました。

その成功の要因は、①村や村民が「観光事業」としての認識を共有し、村だけでなく近隣の市町村も含め広域的な観光資源として捉えたこと。

②JTBやJRの観光事業部への積極的な売り込みと継続的な情報発信、タイムリーなツアー企画の提供の継続。

③環境省「星空の綺麗な

村」や「恋人の聖地」の認定を受け、知名度を全国的に拡大したことの3点にあります。

これにより、若者やカップルが、リピーターとして来村するようになり、今では年間130万人の来村者を数え、そのうち80万人が宿泊しています。

村内には、20軒の観光ホテル等が建ち並び、税収増、雇用拡大、商店活性化や農産物の売り上げ増大等に寄与しています。

当町においても、今回の視察を参考に、地域資源の掘り起こしと、町の産業発展に努めていきたいと思えます。



長野県阿智村の説明を受ける委員

総務常任委員会

総務常任委員会は10月20、21日に、公共施設等の長寿命化について先進的取り組みを行っている、埼玉県三芳町で、視察研修を行いました。

調査には、薄葉好弘委員長、加藤宏樹副委員長、熊田宏委員、安井敬博委員、諸根重男委員があたりました。



埼玉県三芳町

三芳町では老朽化する公共施設の維持管理対策として平成24年度から東洋大学の教授1名と職員5名による、公共施設マ

ネジメントワーキング

チームをつくり、①施設の長寿命化②学校施設の地域拠点化③施設の複合化と機能集約④効率的な運営手法⑤公民連携の推進の5つの基本方針案をつくり、住民11名が参加するワールドカフェでの意見交換や、住民8百人を対象にしたアンケート

での意見集約を経て、町民の意見を盛り込んだ基本方針を策定しました。

平成26年度からは、基本方針をより具体的に進めるために基本計画を策定し、個々の公共施設の概要や機能、運営状況、利用状況、さらには大規模改修を行った場合と建替更新を行った場合の費用試算等も行い、道路と

橋梁の長寿命化計画の策定、小中学校、役場庁舎、文化会館、総合体育館、

公民館等の簡易劣化診断及び長期修繕計画を策定しました。

計画を策定し実行する上で、行政だけで行うのではなく、公共施設における長寿命化の必要性及び重要性を町民の方へ説明し、町民と役場が一体となって取り組むことが重要であるとのアドバイスを受けました。

当町においても、老朽化による道路、橋梁、公共施設等の安全性を確保する上で、施設の廃止、複合化、公民連携による民間活力の導入、さらには、施設の広域的利用等を含めた検討が早期に必要であると感じました。



埼玉県三芳町の説明を受ける委員